

実験船との交信内容

リーフデ号実行委員会本部

平成二年四月十一日に実行された、リーフデ号漂流実験に伴い、その実施本部を西上浦地区公民館内に設置し船との交信を主体として、他の報道機関等の問い合わせにも対応する為、其の日は公民館の電話番号で、料金は別途計算のシステムを講じ、機器は別途に本部控室の方に取付けて、ホーンで通話し、その会話が、本部に集っている全員で聞き取れる様にしました。

その横にラジカセを置き、テープに納めておいたもので、実験船（第一長久丸・船長増永佐以男氏）の船舶電話による、乗組員との交信内容を紹介します。

途中各報道関係者よりの問合せも、かなり頻繁でしたが、この分はOBSのインタビューを除き、唯現状報告の交信で、此処では割愛します。

＊交信者 「清」乗組員 清松幸生 「田」指夫区

田村雪男 「汐」実行委員長 本部 汐月三代吉

「ア」OBSアナウンサー 「内」延岡市 内山

登世己

八時四十三分

汐「モシモシ、モシモーシ、聞こえますか」

清「良く聞こえます。唯今米水津沖南下中です。今から日向灘の方に出てみます。波の高さは約一米。そんなにひどくはありませんので、今から速度を上げて南下します。大体以上ですネ」

汐「定時に、時間時間で連絡して下さい。三十分置きなりにお願いします」

清「定時に電話のない時は、電波状態が悪くて、かけられない時ですので（了解されたい）」

汐「分かりました」

九時三十五分

清「現在、島野浦。島野浦の東北三マイル位です。それを土々呂の方に向かって南下中です。土々呂で延岡の人を乗せて（実験には）出ますので」

汐「延岡へ連絡はつきましたか」

清「ハイ。連絡つきました。今の所実験は進行中です」

汐「分かりました」

十時〇分

内「モシモシ、延岡の内山と申しますが」

汐「内山さんノ汐月です」

内「ア、汐月さん、有難うございました。この間は」

汐「どうも、御苦労です」

内「やはり実行するらしくって。延岡の方に向っているらしいですよ」

汐「船との連絡はつきましたか」

内「ハイ。(船との)連絡はつきました。私の方は三名乗込みますので、よろしくお願いします」

汐「それで、そこは何処に(船を)着けるの」

内「赤水と云う所です」

汐「赤水ネ。それは延岡港ですか」

内「延岡の土々呂と云う所です。それと、食糧なんか向うで(佐伯の方で)積込んでいますか」

汐「積込んでおります。だけどネ。何か少し用意すると

いいと思うんですがネ。ニムロブタ・おにぎりは積んでくれども、何か言ってたから、(食物仕入れの時

間が取れゝばネ。何時ごろ着きましようか」

内「もうすぐ着くんじゃないでしようか」

汐「そう思うんですが。もう十分か二十分もすれば着くんじゃないかと思えますヨ」

内「それには、釣道具なんかも積んでいますか」

汐「ハイ。積んでいますヨ」

内「エサなんかも積んでましようかネ」

汐「エサはどうでしようかネ」

内「ハイ。分かりました。よろしくどうぞ」

汐「其の都度情報を入れてくれる様に言って下さい」

内「分かりました」

十時二十八分

清「十時二十分に、鯛名港に到着しました」

汐「内山さんから連絡ありましたヨ」

清「まだ内山さん見えてないんだけど」

汐「そうですね。弁当か何か買いに行つとんじゃないんではないかネ」

清「でしようネ。こちらは波は静かで、まだうねりとか

出てませんので、予定通りで進めます。こっちはあんまり沖に出らんでもいゝみたいで(二十カイリも先に)

三十分位あったら行けると思っていますよ(実験海域に

は)、十一時二十分位から出発するという事にしますから、それまでずっと休憩します」

汐「どうですか、(船の) 乗り具合は」

清「まあ、最高ですネー。ハッハッハ……」

汐「うらやましいなあ」

十一時三十分

清「十一時二十分ごろ、延岡を出航しました。二十五分

位して現場に着く予定です。延岡から三人乗り込みまして、乗員は九人となりました」……あとは交信出来ず。

十二時

汐「モシモシ。実験船ですか。本部です」

清「今ですネ、船をとめた所です。今から位置を確認します

ますので、お待ち下さい」

汐「それでは、改めてそちらから連絡して下さい」

清「そうですか」

汐「それから、北緯何度・東経何度を言うてくれんです

か」

清「あのですネ。電話の回線が切れるといけませんので一寸このまゝにして下さい」

汐「そうですか。はいはいどうぞ」

清「えーとですネ。土々呂沖の御崎みさきから九十度、約十六

キロメートルですネ」

汐「それで、東経とか北緯とか出ないの」

清「北緯三十二度三十分から東へ十六キロメートルですネ。今から開始という事で……」

汐「今から開始ですネ。ハイ。お願いします」

清「モシモシ、天候は曇です。波の高さは一・五メートル位です。白波が少し出ています。風向きは東南ですネ(風速は三メートル位です。)ハイ以上です」

汐「充分気をつけて下さい。お願いします」

十三時二十分

汐「どうですか状況は」

清「そうですネ。天候は曇です。雨は降っていません。

風は東南、風力は二位ですかネ。波の高さはどうですかねえ。これ位だったら、五(メートル)から二(メートル)という所でしょうか」

汐「今の位置は？」

清「現在地は、東経百三十一度五十二分・北緯三十二度三十分九という所です」

汐「それだけ？」

清「船の速力（流れる速さのこと）」

汐「船の速度？」

清「一・三ノット」

汐「そっちに報道機関から直接（電話が）入っていますか」

清「さっき、読売（新聞）から電話があったようですけど」

汐「読売？。えーと何かOBSか何か直接ネ」

清「あゝ、あゝ、ありました」

汐「あったですか。ハイ、分かりました」

清「そっちはどうですか」

汐「こっちもネ。色々聞かれるけど、一時間置きの、長い針十二の所で連絡して下さい」

清「はいはい」

汐「そして、所で今ひま（ですか）？」

清「ハイ。ひまです」

汐「暇になった？。焼酎飲みよるんな」

清「いやいや。そんな状況じゃない」

汐「ホントノ。はいまあ酔わんように」

清「エゝもう酔うとります。ハハハハ」

汐「もう酔うた。船酔いか」

清「そうです」

汐「焼酎酔いノ。ハ、ハイ、まあ頑張ってください」

十三時四十五分

汐「どうですか。今の状況」

清「まあ何とか続けていますけど。良く状況を見ないと

白波が大分立って来たんですよ」

汐「白波が？」

清「はじめの時は、二つ三つだったんですけど、あのポ

ーっと見たたしてですネ、もう廻りは幾つも白波が立

ってしまつて、あの（一寸むつかしくなつて来たか？）

……」

汐「それじゃあもう人間の方も、焼酎飲まんでもいゝよ
うになりよるの？」

清「えゝ、もうすっかり酔うています」

汐「あゝそうですか。今の所船長からの命令（中止）は出ませんか」

清「えゝ、そうですね。今の所あれですけど（海の状態が良くないけど）、一寸やはり早目の方（中止を）がいゝようにあるですね（船酔いが激しいからか？）」

汐「そうですか。それとねエ、テンテン棒をねえ、どういゝ具合に扱っていますか」

清「あゝと、テンテン棒扱っています。そして、後ろから風を受けてますけど」

海図に報告通り、位置記入すると、どうも陸地の方に寄せられている様なので、本部に居合せた田村雪男氏も心配して、電話口に来て、

田「帆の代りになっていますか」

清「前にも張っています」

田「あゝそうですか。そしたら梶はきくんですか」

清「きまますよ」

田「あゝそうですか。今一寸陸地に近づきよるからな」

清「今北向きに向いていますねエ」

田「鶴見の鼻（つまり北方向という意味）の方に梶は向
けられますか」

清「今真北に向いていますヨ」

田「今位置が一寸、どうかと言うと陸地の方に入りよるからな（忠告したんですヨ）」

ここで

汐「ハイイ分かりました。それでは一つ気をつけてやって下さい。お願いします。そして、各時間、時間で連絡入れて下さい」

終に中止

十四時〇八分

清「モシモシ汐月さん。二時（十四時）の時点で（実験を）切り上げます」

汐「切り上げる？。十四時何分で」

清「今の時間、十四時〇八分ですネ」

汐「はいはい。今からネ」

清「燻の残りは全部（十本程）投げ込みましたので。風が強くなりましたので、一寸このまゝでは危ないので（中止します）」

汐「現在位置が分かかりますか」

清「位置は北緯三十二度三十二分、東経百三十一度五十二分、島野浦の東端から南々東に約十四キロの所です百六十七度の方角に十四キロです。今OBSから電話がありましたので、そう言いましたから、二時五十分ころにはそっちの方に（電話が）かかると思いますが、よろしくお願い致します」

汐「分かりました。まあ気をつけて下さい。十分に（注意されて）」

こゝで、佐伯海上保安署中林氏（市長室へ連絡）

十四時十六分

汐「モシモシ。船ですか。今状況はどうですか」

清「海上が大分シケて来ましたから、危険な感じがするので、佐伯へ向けて走っています」

汐「佐伯に向けて走っている。ハイ、分かりました」
本部員に向って

「いゝですか。他はないですか」ないようなので

「ハイ。それでは気をつけて下さい」

OBS二三〇（二時三十分からの放送）で、漂流実験を放送し、直接船との生放送で結ぶ積りでしたが、

漂流中止となったので、本部の汐月委員長に直接インタビュー

十四時五十分 OBS生放送

マ「汐月さんですか。あのー船の方ですが、一寸残念でしたネ」

汐「はい。残念ですけどネ。やはり危険はおかしくな
いという事で、もう中止したのが良かったのではない
かと、昨夜から大変今日の気象関係を心配していたん
ですよ。しかし、まあー今日あそこまでやれたとい
事だけでも、ある程度成果があったんじゃないかと思
って居ります」

マ「あちらにお伺いしたんですが、壘を代りに流したそ
うですネ」

汐「はあ、この壘はですネ、ガラス壘ではなく、ジュ
ースのポリ壘です。一リットル入りの、まあ航行の危険
があつてはいけないという事からです。それを拾った
人は私共委員会の事務局迄御連絡下さいという事で、
それによつて位置と時間と何処にどの様に流れて行つ
たかという事を測定しよう、という事にして居る訳で

す」

マ「今回こういう具合に、まあ中止という事ですけど、

又この様な実験をやってみようとお考えですか」

汐「やりたいんですけどネ。まあ(乗組員の)皆さんが
帰られて、その上で、改めて計画を立てたいと思って
居ります」

マ「あゝそうですか。分かりました。どうもお忙しい所
有難うございます。失礼致します」

汐「どうも、どうも」

気象状況について

平成二年四月十一日 水曜日

十五時十五分。延岡テレホンサービスの気象状況

宮崎地方気象台が十一時三十分に表示しました「強風
波浪注意報」をお伝えします。

大陸に低気圧が発生し始めて居り、あしたには大陸東
岸に進んで来る見込です。この為九州付近では、気圧の
傾が大きくなり、風が強まって来る見込です。

宮崎県では風は南東の風で、最大風速は陸上で十メー
トル乃至十五メートル、海上では十五乃至十八メートル

に達し、突風を伴いましょう。陸上・海上共に充分注意
して下さい。

沿岸の海域では波が高く、波の高さは二・五メートル
のち三メートルの見込です。船や釣等は充分注意して下
さい。この状態は二、三日続くでしょう。

続いて宮崎県地方気象台が、正午に発表しました、宮
崎県北部地方の天気予報をお知らせします。今夜は南東
の風強く、雨で所により雷を伴い、一時強く降るでし
ょう。

明日は南東のち南の風が強く、雨で所により雷を伴な
い、一時強く降るでしょう。

あさっては南西のち北西の風強く、曇時々雨でしょう。
一ミリメートル以上の降水確立は十八時から二十四時迄
は八〇%、あすの〇時から六時迄は九〇%、六時から十
二時迄は九〇%です。

海上の波の高さは、今夜は二・五のち三メートルで、
突風の恐れがあります。明日・明後日は共に三メートル
で、突風の恐れがあります。なお、週間天気予報は延岡
局〇九八二―二一〇一七七番を御利用下さい。次のお
知らせは午後六時ごろです。

十五時二十分 佐伯テレホンサービスの気象状況

大分地方気象台が、正午に発表しました大分県南部地方の天気予報をお知らせします。

低気圧が近づいて来ますので、夕方ごろは風の所が多くなるでしょう。そして、明日にかけて荒模様の天気が続く見込です。現在「強風波浪注意報」が発表中です。

今夜の予報は南東の風が強く、曇時々雨でしょう。

明日は南東の風が強く、雨で所によって雷を伴ない一時強く降る見込です。

明後日は南西・北西の風が共に強く、曇時々雨でしょう。

一ミリメートル以上の降水確立。今日十八時から二十四時迄六〇%、明日〇時から六時迄七〇%、六時から十二時迄八〇%となっております。

海上の波の高さは、今夜は二メートル、明日は二・五メートル、明後日は二メートルの見込です。なお、今夜から明後日にかけて、海上は突風の恐れがあります。

又、週間天気予報のテレホンサービスを〇九七五―三五―〇一七七番で実施して居ります。次のお知らせは、午後六時ごろの予定です。